

平成 31 年度 前期日程

「小論文（国際学部国際学科）」の出題意図

課題文では、「コンテキストをくみ取る」ことの重要性という観点からコミュニケーション能力論が展開されている。解答者は、ベテランの医師の対応について解釈したうえで、立場の異なる人とのコミュニケーションについて、具体的に論じることが求められる。

まず「ベテランの医師」の対応の特徴について、課題文に添って 200 字前後で説明することが期待される。すなわち、余命半年と宣告を受けた患者やその家族は理路整然と気持ちを伝えることができない。その声なき声の中からコンテキストをくみ取ることが求められる終末医療の従事者として、「奥さん」の質問に懇切丁寧に答えるという一見すると十分に思える対応で接した看護師と対照をなすように、この「ベテランの医師」はその質問に直接には答えず、なぜ「奥さん」がその質問を発するのかという背景への心配りによって、「奥さん」が真に訴えたかったことを受け止める言葉を返した点が非常に優れた対応であった。

次に立場の異なる人とのコミュニケーションについての記述にあたっては、課題文の趣旨をふまえた適切な具体例を挙げて論を展開することが望まれる。同じ言葉でもそれを発する人の置かれているコンテキストによってさまざまに異なる意味をもつ。言葉にならないこともある。表出された言葉の表面的なやりとりの先にあるコミュニケーションに思いをめぐらせ、「コンテキストをくみ取ること」がいかに難しく、同時にいかに大切であるかについて、具体例を挙げて論じることが期待される。

評価の基準としては、次の 2 点を重視する。

- ①立場の異なる人とのコミュニケーションについて具体的に例示されていること。それが実体験に基づくものであるかどうかは問わない。
- ②自ら示した具体例の解釈に課題文の論旨が反映されていること

さらに、国際学部のアドミッション・ポリシーに照らして、立場の異なる人とのコミュニケーションに対する積極的な姿勢が示されていることが望ましい。

以上の点を記述する際に、指定された文字数以内で論理的かつ明確に記述する表現・表記能力も評価の対象とする。

出典：平田オリザ『わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か』（講談社現代新書、2012 年、178－182 頁）